

森林やまがた

No.170

2017.7



山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



目次

「やまがた森の感謝祭2017」を開催……………2
 平成29年度山形県森林・林業功労者について…4
 森林環境緊急保全対策事業……………5
 再造林の推進について……………6
 再造林に必要な種子・苗木の生産の状況…………6
 平成29年度第1回やまがた緑県民会議開催……7
 操業を開始した「おきたま木材乾燥センター」…7
 みどりのページ
 平成29年度緑の募金街頭キャンペーンを
 を行いました……………8
 平成29年度緑化推進事業助成金の
 交付決定について……………9
 フォレスト通信……………10
 森林組合長に聴く……………11

森の人紹介

皿谷義幸さん・阿部清志さん……………12
 新たな「絆」の森始動……………13
 協和木材(株)新庄工場が集成材生産を開始…………14
 森の案内人養成講座(春の部)を開催しました……14
 「土地届け」チラシの作成について……………15
 世界初 羽越木材協同組合で導入した
 木質チップ圧縮脱水装置について……………16
 普及情報
 平成29年度森林研究研修センターで実施する
 森林・林業技術研修等について……………17
 山形県の古木・名木……………17
 丸太価格・製材品価格の推移……………18

「やまがた森の感謝祭2017」を開催

山形県では、六月の第一土曜日を「やまがた森の日」と定め「やまがた森の感謝祭」を開催しています。

今年度は、六月三日に尾花沢市の「徳良湖畔子ども広場」を会場に、「つないでいこう 緑と水のたすき 輝く未来へ」をテーマに開催しました。

オープニングアトラクションでは、尾花沢花笠太鼓と源流花笠踊り保存会による五つの流派の踊りが披露され「ヤッショ、マカショ」の勇ましい掛け声と花笠太鼓が初夏の徳良湖に響き渡りました。

式典では、主催者を代表して若松副知事が「この感謝祭を契機に、森を守り、育て、暮らしに活かしながら、次の世代に緑と水のたすきをつなげ『みどりの循環』の輪が大きく広がることを祈念します。」と挨拶しました。

森林・林業功労者の表彰では、山村・林業の振興に貢献された、米沢市の横尾友吉氏、森林づくり部門は尾花沢市の名木沢生産森林組合、県民参加の森づくり部門は天童・不思議の森に感謝状が贈られました。

また、山形県CO₂森林吸収量認証制度による「森づくり認証」では、二十八の企業・団体が認証され、代表してDCMホームマック株式会社に認証書が授与されました。

議の森に感謝状が贈られました。



緑の少年団に託されたリーレー旗

森づくりリーレー旗の交付は、若松副知事から尾花沢市の緑の少年団に手渡され、今年度の森づくりリーレーがスタートしました。

式典の最後には、若松副知事と「尾花沢市の緑の少年団」の子ども達や森林ボランティアリーダー、さらに尾花沢市のシンボルキャラクター「雪ごろう」と緑の募金キャラクター「どんぐりくん」も応援にかけつけ、「森に感謝し、森を育て、暮らしや産業に活かし、『やまがた森林ノミクス』を進めましょう。そして、県民みんなで支える森づくりの輪を広げ、豊かな緑と水のたすきを未来につなげていきましょう」と森づくり宣言を力強く行いました。



会場全員で「森づくり宣言」

記念植樹では、主催者や来賓、尾花沢市の緑の少年団が、山形トヨペット株式会社から寄贈された「ソメイヨシノ」を植樹しました。



植樹後の記念撮影 (左)尾花沢市長 (右)市議会議長

また、「森のホームステイ」の活動も行いました。これは、森で採取したどんぐり（ミズナラ等の種）を竹ポットに植え、苗木を各家庭や学校職場などで育ててもらい、再び森に還すというものです。前回の感謝祭から続けており、今回は、六十鉢の竹ポットができあがり、各家庭に持ち帰っていただきました。



「森のホームステイ」の竹ポット作り

このほかに、会場内の展示・体験・販売コーナーでは、「やまがた緑環境税」を活用した森林整備のパネル、絆の森協定企業による森づくり活動紹介パネルの展示のほか、バームクーヘンや森のポップリ、竹とんぼづくりなどのクラフト体験、遊びながら森林内を探検するネイチャーゲームなど様々な催しが行われました。森づくり活動では、緑の少年団がウッドチップ敷き、一般参加者が下草刈りを行いました。ウッドチップ敷きの会場では丸太をチップに加工するチップパーの実演が行われ、ナラ枯れや松くい虫などの被害木が有効

活用されていることを学びました。その後、各班にわかれブルーシートを利用してチップ敷きを行いました。完了後は、敷き終わった遊歩道を歩きぞめし、チップのフカフカした感触をみんなで楽しみました。



「ウッドチップ敷き」の様子

前日から雨が心配される中ではじまった今年の感謝祭でしたが、式典開始の頃には太陽が顔を出すなど天候に恵まれ、約千三百人の方々から参加いただき、徳良湖周辺で楽しい一日を過ごすことができました。

☆☆☆☆☆☆☆☆

山形トヨペット株式会社から 寄贈していただきました

「やまがた森の感謝祭」の開催に先立ち、五月二十四日に山形トヨペット株式会社の鈴木寿昭社長と緑の大使であるミス・インターナショナル日本代表の筒井菜月さんが来庁され、福島県産ソメイヨシノの苗木六十本と森づくり活動で使用する児童用ヘルメット四十八個・大人用二十個を、知事に贈呈していただきました。

これは、トヨタグループによる「第42回ふれあいグリーンキャンペーン」の一環として行われているもので、緑の大使からは協賛を受けている公益社団法人国土緑化推進機構からのメッセージも伝えられました。知事からさくらんぼのブローチがプレゼントされるなど、終始和やかな懇談となりました。

贈られた苗木は、感謝祭の記念植樹で使用され、ヘルメットについても、県内各地で行われる森づくり活動で活用させていただきます。

〔県みどり自然課〕



表敬訪問された方々との記念撮影



「緑の大使」からのメッセージ

山形県森林・林業功労者について

◆はじめに

六月三日（土）に徳良湖畔こども広場（尾花沢市）で開催された「やまがた森の感謝祭2017」において、若松副知事から森林・林業功労者に感謝状が贈呈されました。



山形県森林・林業功労者については、毎年、森林・林業の振興及び緑化推進等に顕著な功績があった個人や団体を対象に、

- 一 「森林づくり」部門
- 二 「森林保護保全」部門

三 「山村・林業の振興」部門

四 「木材・林産の振興」部門

五 「緑化の推進」部門

六 「県民参加の森づくり」部門

の六部門の中から選出して表彰しているものです。

今年度は、一個人、二団体が受賞しましたので、その功績について紹介します。

◆「山村・林業の振興」部門

横尾友吉氏

生産森林組合の組合長として、米沢市生産森林組合連絡協議会の会長も務め、組合相互間の連携強化に尽



横尾 友吉 氏

力してこられました。また、米沢森林会議委員として、市の森林整備の計画等に指導・助言を行うとともに、研修会や植樹祭に積極的に参加し、地域林業の振興に貢献されました。

◆「森林づくり」部門

団体 名木沢生産森林組合

前身の名木沢山林組合から活動を開始し、現在80〜100年生の人工林を、長期的な事業計画に基づいて積極的に間伐作業を実施しています。また、地元の小学校に対して森林環境学習を実施するとともに、間伐材を地域のゴミステーションの部材に提供するなど、県産木材の利用促進にも大きく貢献し、周辺の森林所有者や団体の模範となっています。



名木沢生産森林組合
組合長理事 國分氏

◆「県民参加の森づくり」部門

団体 天童・不思議の森

天童市貫津地内の森で、下刈り、間伐、枝打ちの森林整備等、積極的な森林ボランティアを行っています。また、間伐材からベンチやプランターカバーを製作し、市や公民館、保育園等に寄贈するとともに、子ども向けに間伐材を利用した「将棋の描き駒のワークショップ」を開催するなど、地元のスギ材の利用促進にも貢献されています。



天童・不思議の森
代表 山口氏

◆おわりに

横尾様、名木沢生産森林組合、天童・不思議の森の皆様、誠におめでとうございます。今後のますますのご活躍をご期待申し上げます。

〔県林業振興課〕

森林環境緊急保全対策事業

「やまがた緑環境税」による森林整備

◎森林環境緊急保全対策事業

やまがた緑環境税を活用した森林整備関連事業として、①荒廃森林緊急整備事業、②森林資源再生事業、③森林資源循環利用促進事業、④広葉樹林健全化促進事業の4つの事業を実施しています。

平成19年度から平成28年度までの10年間の森林整備は、計画量一万六千六百haの目標に対し一万千八百三十六haの実績となり、一〇二%と目標を達成することができました。

しかしながら、県内には未だに荒廃のおそれのある森林が残っていることから、平成27・28年度にやまがた緑環境税の評価検証を行った結果、引き続き10年間の森林整備を継続することとなりました。

◎平成29年度以降の森林整備

平成29年度以降の森林整備は事業内容を下図のように見直しを行いました。

①荒廃森林緊急整備事業

荒廃森林緊急整備事業は、平成29年度からの10年間で一万千六百haの

森林整備を目標とし、人工林と里山林の二区分に分け実施することとしています。人工林については、人工

林の再生を起点とした環境に配慮した森林経営の展開を目的とした針葉樹林維持型と、水源かん養などの公益的機能の高い森林を育成することを目的とする針広混交林型とし森林整備を行うこととしました。

針葉樹林維持型では、計画的な間伐実施や間伐材の搬出に必要な路網整備を強化することとしています。

里山林については、これまでと同様に、病害虫等の被害を受け活力の低下した森林において、抜き切り等の森林整備を行い里山林の再生を図ることとしています。

②森林資源再生事業

森林資源の循環利用に向けて、主伐後の再造林への支援を強化するため、再造林に要する経費の一部を支援し、森林の持つ公益的機能を、森林資源の循環利用により持続的に維持増進を図ってまいります。

③森林資源循環利用促進事業

人工林の間伐材等の低質材を、集

材材の材料やペレット等のバイオマス燃料等としての利用を図るため、搬出支援を行います。

④広葉樹林健全化促進事業

ナラ林等を更新し健全化するとともに、材を利活用するため、搬出及

び作業道の設置を支援します。

今後とも、「やまがた緑環境税」を活用した森林の整備について、周知を図りながら、着実に進めてまいりますので、皆様の御理解と御協力を願います。〔県林業振興課〕

平成29年度以降森林環境緊急保全対策事業の概要

<p>1 荒廃森林緊急整備事業【拡充】 森林整備 11, 600ha</p> <p>◇事業の内容 荒廃のおそれのある人工林の間伐や、活力が低下している里山林の森林病害虫などによる被害木の伐採などを行う</p> <p>■人工林整備 手入れが不十分で荒廃のおそれのある人工林の整備</p> <p>やまがた緑環境税による整備 国庫補助事業を活用し「整備（森林環境保全国庫支援事業等）」</p> <p>□針葉樹林維持型 スギ人工林の再生を起点とした環境に配慮した森林経営の展開</p> <p>◎計画的な間伐の実施や間伐材の搬出に必要な路網整備を強化</p> <p>□針広混交林型 水源かん養など公益的機能の高い森林を育成（針広混交林整備）</p> <p>■里山林整備 病害虫等被害で活力が低下した里山林の再生</p> <p>やまがた緑環境税による整備 市町村による森林景観及び人と動物の共存林の整備</p> <p>◎税を活用した森林整備による公益的機能の維持増進についてPRを強化</p>	<p>2 森林資源再生事業【拡充】</p> <p>◇事業の内容 森林の有する公益的機能の維持増進及び持続的に発揮する仕組みを構築するために、再造林に要する経費の一部を支援する</p> <p>◎森林資源の循環利用に向けて、主伐後の再造林への支援を強化</p> <p>3 森林資源循環利用促進事業 間伐材等の搬出支援</p> <p>◇事業の内容 間伐等で発生する低質材を、ラミナ用材やペレット等のバイオマス燃料等として利用するための搬出等を支援し、環境保全に配慮した木材の利用促進を図る</p> <p>4 広葉樹林健全化促進事業 ナラ等の伐採搬出に関する助成</p> <p>◇事業の内容 ナラ枯れ被害木を含むナラ林等を伐採し、チップ材等への活用に併せ、害虫の駆除とナラ林の若返りを図るため、搬出及び作業道の設置を支援する</p>
---	---

「再造林の推進について」

再造林は、水源のかん養、県土の保全、地球温暖化の防止等の公益的機能の持続的な発揮と森林資源の循環利用に不可欠な取り組みです。

しかし、再造林に係る経費負担が大きいこと、再造林の担い手となる森林組合が伐採情報を入手する仕組みが無く、森林所有者に再造林を働きかけることができないことなどの理由により、主伐面積に対する再造林面積の割合は平成27年度の実績で33%と約3分の1に止まっています。

そのため、県では、昨年12月に施行された「山形県の豊かな森林資源を活用した地域活性化条例」(通称：やまがた森林ノミクス推進条例)に「再造林の推進」を明文化し、特に重要な施策として位置づけ積極的に取り組むこととしました。

こうした状況の中で、森林を健全な姿で次の世代に繋いでいくために人工林の伐採後の再造林率を引き上げる必要があることから、今年度「再造林経費への支援強化」「再造林の推進体制の構築」を2本の柱として再造林を推進することとしています。

再造林の支援については、現在国庫補助事業とやまがた緑環境税を活用して80%補助していますが、自己負担を軽減し再造林に取り組めるよう再造林経費を助成する基金の創設を進め、行政と事業者が分担して支援する新たな制度の構築に取り組んでまいります。

次に、推進体制については、市町村や森林組合、素材生産事業者、木材産業者等で構成する「山形県再造林推進会議」を新たに設置し、事業者間の情報共有や連携の強化を図りながら、主伐・再造林の一体的かつ計画的な実行や森林経営の長期収支の提示など森林所有者の再造林へ理解を深める働きかけを推進していくこととしています。

〔県林業振興課〕



「再造林に必要な種子・苗木の生産の状況」

森林の有する多面的機能の持続的発揮及び森林資源の循環利用に向けて、主伐後の再造林を推進するためには、優良な種子、苗木の生産拡大と安定供給が必要となっています。

種子については、県が鶴岡市羽黒町にある森林研究研修センター林木育種園で、造林用種子を生産し、多様でかつ山形県の環境に適した優良種子を県内の苗木生産者に供給しています。(平成28年度の種子生産量は下記の表のとおり)

苗木生産に関する支援としては、生産施設や資材等の整備に対する支援として、平成27年度より県単独事業で「コンテナ苗普及促進事業」を実施しています。また、平成28年度から「山形県林業用種苗需給情報連絡会議」を開催し種苗の需給情報を受給者、供給者間で把握しています。

現在、コンテナ苗や少花粉スギは、需要に対し不足しています。今後も需給情報を共有することにより、供給体制を整え、再造林を推進していきたいと考えています。

〔県林業振興課〕

平成28年度種子生産実績

樹種・品種	配布可能量	換算苗木生産量
スギ精英樹	90.4kg	約362万本分
スギ耐雪品種	8.8kg	約35万本分
スギ少花粉品種	1.5kg	約6万本分
マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ暫定品種	1.5kg	約10.5万本分
クロマツ精英樹	1.9kg	約13.3万本分
アカマツ精英樹	採種なし	



平成二十九年第一回やまがた緑県民会議開催

◆はじめに

やまがた緑環境税を活用した事業の評価と検証を行う「やまがた緑県民会議」の今年度第一回会議を六月十四日（水）に山形県建設会館（山形市）で開催しました。

◆二十八年度事業実績及び二十九年度事業計画等について

平成二十八年度やまがた緑環境税活用事業の実績及び平成二十九年度やまがた緑環境税活用事業の計画等について報告を行いました。

二十八年度実績総額は六億六千四百万円（やまがた緑環境税分）。荒廃森林緊急整備事業については計画を超える千六百十七haを整備。NPOなどの森づくり活動を支援する公募事業は百六事業、市町村交付金事業では百六十事業の助成を行いました。県民参加の森づくり人数は十万六百七十三人となり、目標の十万人を上回りました。

また、二十九年度事業の総額は七億二千万円（やまがた緑環境税分）とし、主伐後の再造林を行う仕組みの構築を図る「森林資源再生事業」を引き続き実施するほか、人と、木

や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育てていく「木育（もくいく）」の推進や、「やまがた緑環境税」認知度向上のための様々な広報活動を行ってまいります。

◆おわりに

県では、今後もやまがた緑県民会議においてふるさとの森林を守るやまがた緑環境税活用事業の効果について御意見、御提言をいただき、県民の皆さんにやまがた緑環境税活用事業への理解を深めていただきながら各種施策を展開してまいります。

〔県みどり自然課〕



第1回やまがた緑県民会議の様相

操業を開始した「おきたま木材乾燥センター」

◆はじめに

木材需要が拡大する中、乾燥施設がなかった西置賜地域に乾燥施設「おきたま木材乾燥センター」が整備され、この4月から稼働しました。当センターは、昨年度、長井市、

白鷹町及び飯豊町内の6社の製材業者や建築業者が協同で設立したもので、合板・製材生産性強化対策事業を活用し、木材乾燥機等の施設整備を行い、木造公共施設や住宅等で活用される製材品（柱・梁・桁）の生産体制の強化を図ることにしています。

◆会社等の概要

- 所在地
 - ・白鷹町大字鮎貝54番地
- 事業主体
 - ・おきたま木材乾燥センター株式会社
- 構成員
 - ・丸ト建設株式会社、那須建設株式会社、ワタナベ製材所、有限会社渡部製材所、影沢製材所、株式会社鈴木工務店
- 施設の概要
 - ・木材乾燥機64m（高温タイプ 32m×2台）

- ・自動四面かん盤、グレーディングマシン、含水率計ほか
- ・作業用建物一棟（木造平屋4百㎡）

生産計画

- ・製材品生産量36百m（※原木換算73m）（人工乾燥材23・5百m、天然乾燥材12・5m）



【木材乾燥機】

◆おわりに

中核的な施設として、競争力ある製品生産及び販売促進に向けた取組による地域の雇用創出と活性化が図られることを期待します。

〔置賜総合支庁森林整備課〕



みどりのページ

平成29年度緑の募金街頭キャンペーンを行いました

緑の募金強調月間

【みどりの月間】(4月

15日～5月14日)に合わせて県内各地で緑の募金街頭キャンペーンを開催し、「緑の募金」を広く県民の皆さんに周知するとともに、募金への協力を呼びかけました。

緑の募金街頭キャンペーン出発式

◆期日 平成29年4月20日

◆場所 文翔館前広場(山形市)

緑の募金街頭キャンペーン出発式は今年度も文翔館前広場で開催し、永年にわたって緑の募金に功績のあった企業や団体の皆様への感謝状の贈呈や保育園児による緑のメッセージの読み上げ、ボランティア団体への募金資材の引渡しなどを行いました。出発式の後には、参加者に西洋シャクナゲの苗木をプレゼントし、今年度の緑の募金も華やかなスタートを切ることができました。

街頭募金は山形駅や七日町周辺で行いましたが、今年はこちらようど桜が満開の時期と重なったことから、花見客で賑わう霞城公園の入口周辺でも募金活動を行い、多くの善意をいただくことができました。

◆平成29年度感謝状贈呈団体

(株)荒正、ASEジャパン(株)、オピサン(株)、小森マシナリー、(株)三洋、三和油脂(株)、(株)蔵王ミート、(株)ジャワ商会、スズキハイテック(株)、日新製菓(株)、特殊法人山形県信用保証協会(五十音順)

◆街頭募金に協力いただいた団体

山形県緑を育てる女性の会
山形グリーンライフ女性の会
東海大学山形高等学校(順不同)
◆募金額 50,734円



霞城公園入口周辺での募金活動

最上地域街頭キャンペーン

◆期日 平成29年4月16日

◆場所 新庄駅前、ヨークベニマル

◆新庄店、マックスバリュ新庄店

北辰小学校みどりの少年団員の協

緑の募金にご協力いただいた企業・団体のみなさま (H29.4.1~5.31)

(山形県みどり推進機構取扱い分)

アイ・エム・マムロ(株)、(株)阿部林業、(有)荒井材木店、(株)荒正、大江ロータリークラブ、(株)大山製材所、岡崎医療(株)、(株)沖田木材産業、上山ロータリークラブ、(特非)環境ネットやまがた、寒河江さくらんぼロータリークラブ、寒河江ライオンズクラブ、寒河江ロータリークラブ、佐久間会計事務所、(株)さくらんぼテレビジョン、(株)佐藤工務、サニーヒル菅沢、(株)三和技術コンサルタント、JA共済連山形、全国農業協同組合連合会山形県本部、(株)ダイユー、高島ロータリークラブ、立川ロータリークラブ、(株)テトラス、天童東ロータリークラブ、(株)内外ビルクリーン、中島林業(有)、(株)ナルセ、(一社)日本自動車販売協会連合会山形県支部、農林中央金庫山形支店、東根中央ロータリークラブ、(株)フィデア総合研究所、(有)フジハラ自動車、(有)舟形マッシュルーム、ミドリオートレザ(株)、村山ロータリークラブ、(株)山形環境エンジニアリング、山形県医師会、(公社)山形県看護協会、(公財)山形県企業振興公社、山形県行政書士会、山形県金峰少年自然の家、山形健康管理センター、山形県後期高齢者医療広域連合、(公財)山形県国際交流協会、山形県国民健康保険団体連合会、(公財)山形県産業技術振興機構、山形県市長会、山形県市町村職員共済組合、山形県社会福祉協議会、山形県商工会連合会、山形県職業能力開発協会、(公財)山形県私立学校総連合会、山形県信用保証協会、(公財)山形県体育協会、山形県中小企業団体中央会、山形県町村会、山形県土地改良事業団体連合会、山形県農業共済組合、(公財)山形県埋蔵文化財センター、(一財)山形県理化学分析センター、(公財)山形県林業公社、山形市農業協同組合、(株)山形城南木材市場、山形中央ロータリークラブ、山形東亜DKK(株)、(株)山形道路、山形東ロータリークラブ、山形南ロータリークラブ、(株)山形メタル、米沢信用金庫、米沢中央ライオンズクラブ、米沢松川ライオンズクラブ、米沢ライオンズクラブ、(有)渡部製材所、(株)渡会電気土木 (以上、敬称略・五十音順)

ご協力ありがとうございました。



みどりのページ

(公財)山形県みどり推進機構

当法人では、地域のボランティア団体や自治会などが行う植樹活動や環境緑化事業などに対して助成を行っており、平成29年度の採択事業が決定しました。今年度の交付団体は下表のとおりです。

**平成29年度緑化推進事業
助成金の交付決定について**

◆期日 平成29年5月20日
◆場所 イオンモール三川
買い物客で賑わうイオンモール三川で募金活動を行いました。併せてブルーベリーの苗木をプレゼントし、緑化の普及啓発を図りました。
◆募金額 8,340円

庄内地域街頭キャンペーン

◆期日 平成29年4月22日
◆場所 松が岬公園周辺(米沢市)
桜が満開の松が岬公園周辺を会場に、米沢市緑の少年団員が元気いっぱい募金の協力を呼び掛けました。
◆募金額 31,688円

置賜地域街頭キャンペーン

◆募金額 38,096円
力により、元気いっぱい募金の呼び掛けを行いました。

平成29年度 公益財団法人山形県みどり推進機構 緑化推進事業交付決定一覧表 (単位:千円)

市町村	申請団体	採択額	市町村	申請団体	採択額
①都市・農山村の環境緑化整備事業(1件あたり上限30万円)			②都市・農山村の環境緑化維持管理事業(1件あたり上限10万円)		
天童市	立谷川の花さかじいさん	285	金山町	三枝地区	98
中山町	天盃泉利用組合	300	金山町	壮樹会	67
西川町	西川町梅沢町内会会館運営委員会	120	金山町	楯山を愛する会	95
朝日町	大谷連合区	300	金山町	飛森地区	92
金山町	檜台地区	300	金山町	羽場地区自治会	96
最上町	緑を愛する会	296	金山町	安沢地区	58
真室川町	ふるさと山の会	275	米沢市	窪倉豊心会	98
米沢市	北町共和会	300	米沢市	芳泉町町内会	100
米沢市	特定非営利活動法人斜平山保全活用連絡協議会	300	米沢市	米沢市立第六中学校父母と教師の会	100
米沢市	三沢花いっぱい運動推進協議会	200	南陽市	岩部山三十三観音保存会	100
米沢市	米沢市松川コミュニティセンター管理運営委員会	224	長井市	岡鼠原のみ会	68
米沢市	米沢市倫理法人会社会貢献委員会	300	長井市	勸進代区	100
小国町	針生自治会	300	長井市	花と緑・環境の会	100
白鷹町	羽黒の森を守る会	289	小国町	叶水小中学校PTA	23
飯豊町	お伊勢堂里山再生協議会	235	飯豊町	上郷地区緑化推進協議会	100
飯豊町	手ノ子区協議会	300	飯豊町	東山友志会	100
鶴岡市	温海川自治会	300	鶴岡市	温海温泉自治会	100
鶴岡市	あつみ湯けむり女子会	300	鶴岡市	木野俣自治会	100
鶴岡市	小菅野代自治会	164	鶴岡市	昭和通り振興会	90
②都市・農山村の環境緑化維持管理事業(1件あたり上限10万円)			鶴岡市	鶴岡市温海第3地区自治会	100
山形市	館山会	77	鶴岡市	藤倉山ブナ林保存会	100
山形市	長町第9区町内会	96	鶴岡市	美原町町内会	100
山形市	成安癒しの川(白川)を守る会	100	鶴岡市	山五十川自治会	100
山形市	山形県林務職員村農同窓会	100	庄内町	あまるめさくら咲多会	50
天童市	上貫津町内会	99	③県土緑化の普及啓発・調査研究事業(1件あたり上限10万円)		
天童市	津山の自然を守る会	62	山形市	山形グリーンライフ女性の会	82
山辺町	大蕨棚田さくら公園設置管理運営委員会	100	山形市	山形県緑を育てる女性の会	78
中山町	中山口タリークラブ	100	朝日町	ひめさゆり愛好会	100
寒河江市	慈恩寺共有山林組合	100	小国町	Walnuss wald	98
西川町	石田町内会	68	酒田市	万里の松原に親しむ会	100
尾花沢市	芭蕉の道フラワーロード咲花学会	50	④森林環境教育事業(1件あたり上限10万円)		
尾花沢市	ニツ森観光開発促進委員会	90	山形市	山形県指導林業士会	100
尾花沢市	宮沢翁塾	70	山辺町	玉虫散策道能中峰をよくする会	100
金山町	有屋地域公民館連絡協議会	100	米沢市	三沢地区学校林整備委員会	100
金山町	稲沢地区	97	鶴岡市	特定非営利活動法人公益のふるさと創り鶴岡	100
金山町	上台地区	100			

二学年二十五人による本格的な学科運営がスタート

◆新年度に入り、林業経営学科にも二期生（一年生）十人が入学し、二学年あわせて二十五人の学生が、毎日元気に課業に取り組みとともに、充実した寮生活を送っています。二学年体制として新たなスタートを切った山形県立農林大学校林業経営学科の学生の様子を、今年度も随時お伝えしていきます。

●一か月が過ぎて・・・

四月十三日の入学式から一か月が過ぎ、一年生十人は、森林や林業の専門用語にとまどいながらも、はじめて見る資機材に興味を持ちながら、毎日、元気に講義や実習に取り組んでいます。林業経営学科で学ぶ分野は、森林経営をはじめ、造林・育林や森林生態などの生物系からチェーンソーや高性能林業機械などの機械系、木材や特用林産物など広範囲に及ぶため、はじめは履修分野を見ただけでも不安になります。しかし、講義や現場での専門的な実習、インターシップなどを通して、一年後は彼らも一期生同様、たくましく成長するものと思えます。



機材室の前で集合写真(1年生)

●二年生の実習も本格始動

四月早々、二年生は、実習林での枯損木の伐採実習に取り組みました。才治沼実習林は学校の北側に位置し、約〇・六畝のスギ人工林と約二十六畝の広葉樹林・草地が広がっています。しかし、病虫害や気象害で枯損した立木が多く危険なため、伐採を行いました。特に欠頂木は重心線の移動が難しく、また、完全に枯れた立木は伐採時の枝の跳ね返りに十分注意する必要があります。中には伐倒点での直径が五十センチメートルを超えるものもあり、学生は緊張しながらも細心の注意を払いながら伐

採を行いました。

五月に入り、いよいよ森林路網の講義、実習がはじまりました。学生の多くは卒業後、伐採や造林・育林などの現場での業務を希望していることから、路網整備は特に重要な授業となります。まずは、金山町森林組合が開設し間伐材を搬出した森林作業道において、職員から路線選定にあたっての留意点や水処理の方法などについて説明を受けました。また、五月下旬からは、県営林において外部講師による森林作業道の設計に関する講義、実習を行いました。



才治沼実習林での枯損木の伐採

●はじめての卒業論文への対応

林業経営学科としては、はじめての卒業論文への取り組みとなります。二年生全員が、更新技術や高性能林業機械の効率的システム、虫害や獣



昆虫トラップを調べる
(卒業論文試験地にて)

害などそれぞれのテーマを決め、試験地の設定から調査、取りまとめ、当年度の成果発表まで行います。卒業論文の目的は、専門的知識や技術の習得と、調査、試験の方法や結果のまとめ方などの能力を養い課題解決能力の向上を図ることにあり、将来、彼らが担う業務の中で大きな力となることは間違いありません。

●ステップアップの年として

講義や実習、卒業論文への対応と忙しい中、来年四月の就職や進学に向け、二年生は今、大いなる思考回路を働かせています。「森から木材を供給する」、「森を育てる」、「木材を有効に加工し利用する」など手法は様々ですが、森林をベースにした産業『林業』の将来を担うという目的は同じです。一期生としての誇りを持ちながら、人生の中でも大きなステップアップの年として、充実した学生生活を送ってもらいたいと望んでいます。〔山形県立農林大学校〕

対談シリーズ 森林組合長に聴く

対談シリーズ「森林組合長に聴く」

第4回目は北庄内森林組合代表理事
組合長高橋治雄氏と森林研究研修セ
ンター古川和史所長との対談です。

【対談者の紹介】

○北庄内森林組合

代表理事組合長 高橋 治雄

酒田市中野侯在住。組合長4年目



組合長としての責務

所長…組合長になられて4年目で、その前に理事をされていたわけですが、理事と組合長では立場が変わり組合の概念や林業に対する考えが変わったところはあると思いますか。組合長…組合長になる前は個人で山に行って林内作業車を使って間伐し

てきました。暇を見つけて山に行つて仕事をしていたわけですが、組合長になってからはそれを組合に任せ、組合長の仕事に専念しています。

木材の価格が下がっているので、木材運送業者に依頼して共販などにしても収益が出ない状況で、方策に苦慮しています。

自前のトラックで運搬するよりも

組合長…今、組合では、AとD材についてトラックを購入して自前で運搬するよりも、山土場売りにしたほうが得ではないかと計算し、一定量を常に買いにきてくれる業者さんを探していきたくて考えています。

所長…量がある程度まとめられるのであれば、自前のトラックを持つて運ぶほうが得かと思いますが、トラックが遊ばないよう常に現場を確保することが難しいようであれば、逆の考えもできるのかもしれないね。輸送費は馬鹿にできないですから、そこを工夫して組合員にだけだけ還元できるかということですね。

組合員から「良かった」という声

所長…切り捨てから搬出間伐に代わったのもここ数年のことだと思えますが、出てきた材をいかに上手く売るかだと思えます。販売の方はどうですか。

組合長…できるだけ高値のところに出すように考えていますが、これまでの地域の方や出資企業との関係もあり、その方々も困らないようなことも考えながら販売しています。

所長…所有者には利益還元はされていますか。口コミにより組合評価が高まることも大切だと思いますが。組合長…良かったという声が聞こえてきています。先進組合はもっと多く還元できているようですが、年齢構成などで、まだうちは若いような気がします。よそのところがよく見えるような気がします。

再造林後の保育がどうなるか不安

所長…再造林については、県の最重要施策としておりますが、どのようにお考えでしょうか。組合長…理解はできません。しかし、植えるまではできますが、その後の保育がどうなるか不安です。植栽後10年くらい下刈の手間がかかります。そのぐらいしないと雑木からスギがのまれてしまうと思います。

所長…保育経費を最小限にするために下刈り回数についても、研究が必要ですね。早く下刈りを切り上げるために成長の早いものを植えていくことも検討されています。木材生産量を増やすためにも主伐・再造林の

推進をお願いします。

若い人は通年雇用でないとい入れにくいので月給制をとっています

所長…人材育成について、農林大学校生は学問を学び、実地もやっていますので即戦力になると思います。が、新しい雇用など考えていますか。組合長…新旧のバランスを取りながら緑の雇用制度等を活用しています。特に若い人は通年雇用でないと入れにくいので月給制をとっています。60歳定年制を取っていますが、その後1年ごとの再雇用という形で、技術が伝わるようにしています。農林

大学校では、先日の説明会でもインターンシップ希望の学生がいてくれて、期待しています。

所長…最後に今後の組合経営に向けて力強い意思表示をお願いします。組合長…とにかく組合員と対話しながら、理解していただき、経営計画をしつかり組んで、主伐・間伐を進め、組合の経営安定を図りたいと考えています。

平成29年5月16日

北庄内森林組合にて対談

対談全文は森林研究研修センターのホームページでご覧ください。

〔森林研究研修センター〕

森の人紹介

山形県青年林業士会 会長

皿谷 義 幸さん



皿谷さんは、小国町森林組合で森林整備事業の境界明確化、ナラ枯

れ防除等、幅広い業務を担当されています。平成27年度には森林施業プランナーの認定も受けるなど、常に新しいことに対し積極的に取り組まれています。こうした精力的な活動が認められ、平成28年7月、第一期目の青年林業士に認定されました。青年林業士の役割は様々で、県立農林大学の学生や卒業生といった若者の育成も含まれています。

今回は青年林業士会の初代会長も務める皿谷さんに「会長」としてお話しただきました。

●昨年度の活動はいかがでしたか？
「農林大学の間伐実習や林業まつりに参加しましたが、まだ立ち上げ



たばかりで手探り状態というのが正直なところですが、今年度は会員それぞれの得意分野を活かした活動を積極的に取組んでみたいと考えています。」

「青年林業士の活動は普段よりも若者との関わりが多く、彼らの考えや声を聞けるのもいいですね。」

●課題を教えてください。

「会員は事業体従事者がほとんど。自分は今のところ森林組合の仕事として活動させてもらっているが、組合が忙しい時期はなかなか参加できません。大学校との調整も重要になります。」

●これからの目標を教えてください。
「会として、若者に注目してもらえらるような活動をしていきたいです。個人的には高校生を対象にした活動もしたいと思っています。県内の高校から農林大学校に進学して林業について学んでもらい、将来林業関係の職場にぜひ就職して欲しい！また、子供達に木を身近に感じてもらえるよう木育活動も行っていきたい。」

皿谷さんの頭の中には、既にいろんなアイデアがあるようでした。今後頼れるまとめ役として、皆をリードしてほしいと思います。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

地域の活性化を目指して

指導林業士

阿部 清 志さん



阿部さんは、酒田市山元で産直を営んでおられる林業士の阿部清志さんをご紹介します。

阿部さんの住む酒田市の山元地区では、昔は山の中に入って林業経営を行う人や、山菜採取を行っていた人がたくさんいたとのことですが、残念ながら近頃は高齢化や山への関心の薄れに伴い、山に入る人が少なくなり、管理が行き届かない荒れた山林が多くなってしまうとのこと。この状況を微力ながらも改善したいと、阿部さんは平成20年に産直「山友」の経営を始め、地元地域の活性化のため、地元で採れる天然の山菜・きのこなどの販売のほか、ワラビ、ウド、シドケといった山菜やシイタケ、ナメコ、ヒラタケをはじめとした原木きのこの栽培にも取り組んでいます。

平成24年からは庄内林業研究会に所属し、これまで取り組んできた知

識や技術を活かし、特用林産物の加工や販売の講師としても活躍しています。

また、酒田市有林の管理を長年行ってきたことから、手入れ不足になった個人所有のスギ林の間伐や間伐後の林床の活用指導にも取り組んでいます。

このような活動実績があったことから、平成29年には指導林業士となり、活動をされています。今後は林に入ったことのない山林所有者から少しでも林業に興味を持ってもらい、自主的に林に入ってもらえるよう活動していきたいと、これからの活動に対する意気込みを語ってくださいました。

今後も、地域の森林整備や山菜振興の推進のため、継続して活動されることを期待しております。



〔庄内総合支庁森林整備課〕

新たな「絆」の森 始動

○モンテディオ山形 未来の森

平成29年5月28日(日)、モンテディオ山形未来の森(天童高原)において協定締結後、初めてとなる森づくり活動が行われました。当日は、「天童高原634(ムサシ)の松交流イベント」と併せて開催され、多くの県民が参加しました。

式典では、天童市長はじめ、多くの来賓の皆さんとモンテディオ山形



ジュニアユースの子ども達がオオヤマザクラの記念植樹を行い、次世代に引き継ぐ森づくりを行いました。

会場では、山菜やそばの販売・ジュニアユースとのキックターゲットなどが行われ盛り上がりを見せていました。また、天童高原の新緑ウォーキングが催され、スタッフの解説を聞きながら、森林散策を楽しんでいました。

○ニッサンの森

平成29年6月5日(月)、ニッサンの森(朝日町「朝日自然観」)において150人の参加のもと、看板除幕式と下刈り、ミズナラを種から苗に育ててもらおう森のホームステイが行われました。

除幕式では、県みどり自然課長から山形日産自動車(株)・日産プリンス山形販売(株)の小関社長に森づくりリレー旗が引き継がれ、小関社長から「自動車を販売する企業として、商品による二酸化炭素の削減だけでなく、森づくりによる森林の公益的機能の維持・増進と地球温暖化防止に

貢献していく」と力強いあいさつがありました。

森づくり活動では、6班に分かれ、秋に行う植栽地の下刈り活動を行いました。また、自社のEV自動車の電源を利用し、電動チェーンソーを活用して灌木類の伐倒を行うなど、二酸化炭素を排出しない森づくりに励んでいました。



○トヨペットの森

平成29年6月7日(水)、トヨペットの森(山形市みはらしの丘)において社員100人の参加のもと、看板除幕式と下刈り作業や歩道整備



などの森づくり活動が行われました。

除幕式では、市道沿いに位置した大きな看板を披露し、森づくり活動を通して、地域貢献と企業イメージ・社員の環境意識の向上にむけて取り組んでいくことを示しました。

森づくり活動では、参加者は20人ずつ8グループに別れて下草刈りを行い、晴天の中気持ちのいい汗をかいていました。

今後、9月の下刈りのあと、来年6月に植栽する予定にしています。

〔村山総合支庁森林整備課〕

やまがた森林ノミクス 協和木材(株)新庄工場が集成材生産を開始

◆ 集成材生産を開始

新庄市の中核工業団地で整備を進めていた協和木材(株)の大型集成材工場は昨年十二月に竣工し、試験稼働後、三月二十九日に構造用集成材のJAS認定を取得し、集成材の生産を開始しました。

◆ 原木の受入れ状況
昨年九月一日から受け入れ開始した原木は、五月十五日現在で約五万七千立方メートル入荷されました。産地別では山形県産が約三万二千立方メートル、宮城県産約三千三百、秋田県産一万五千五百、岩手県産一万二千立方メートルとなっており、県産材の占める割合は約六割となっています。

新庄工場は年間原木消費量十二万立方メートル、製品出荷三万六千立

方メートルを計画しており、本県の豊かな森林資源を森の恵み、森のエネルギーとして活かしていく「やまがた森林ノミクス」推進の木材産業振興の中核に位置付けられています。今後、最上総合支庁では管内関係者と連携し、林内路網整備や高性能林業機械の導入により木材搬出の低コスト化や木材の安定供給体制を整備するとともに、再造林を推進し緑の循環システムを構築するための施策を展開する計画です。

〔最上総合支庁森林整備課〕



角材を板状にかットするラミナ製造機械

BEST! 森づくりリーダー育成事業 森の案内人養成講座(春の部)を開催しました

○ 装いを新たに

平成二十八年度まで「最上の自然環境教育マスター養成事業」を、平成二十九年度は「BEST! 森づくりリーダー育成事業」として再出発し、「養成講座+育成研修」として「遊学の森」で活動していただく人材を育成していくこととなりました。

○ 森の案内人養成講座(春の部)

森の案内人養成講座は、年3回実施予定で、春の部、秋の部そして遊学の森の通年営業の利点を活かした冬の部と開催することとしています。今回は、先日終了した春の部の概要についてお知らせします。

五月十三日と十四日に開催された講座は、春から初夏にかけて自然を味わってもらおう内容となっています。第一日目は「ネイチャーゲーム」と「野外活動における応急処置」で案内人としての基礎を学ぶものとなりました。

第二日目は「森の恵みを味わう講座」と「自然を知る講座」で、午前中は文字通り春の山菜を目で鼻でそして舌で味わう講座となり、至福の

時間を過ごせました。

午後からは猛禽類の目で自然を知るということで、野生動物との関わりや食物連鎖ピラミッドなどを学びました。

二日間の延べ参加者数は山大生の講座との連携もあり七十一名となりました。やはり山菜料理の魅力は人を引き付けるものなのだ実感しました。

〔最上総合支庁森林整備課〕



2回目 森の恵みを味わう講座

「土地届け」チラシの作成について

「置賜森林再生コンソーシアム」の取組み

このたび、「置賜森林再生コンソーシアム」において、森林の土地を所有（相続）した際の手続き等をまとめた「土地届け」チラシを作成しましたので紹介します。

●置賜森林再生コンソーシアム

置賜総合支庁では、「やまがた森林ノミクス」の地域モデルのひとつとして、森林境界明確化による森林経営の活性化を目指す「置賜森林再生コンソーシアム」を平成26年8月に設立しました。

コンソーシアムでは、白鷹町（白鷹町森林・林業再生協議会）における森林境界明確化や森林経営計画の策定等の取組みを重点的に支援するとともに、他地域に取組みを広める活動を行っております。



●世代交代等による境界不明化

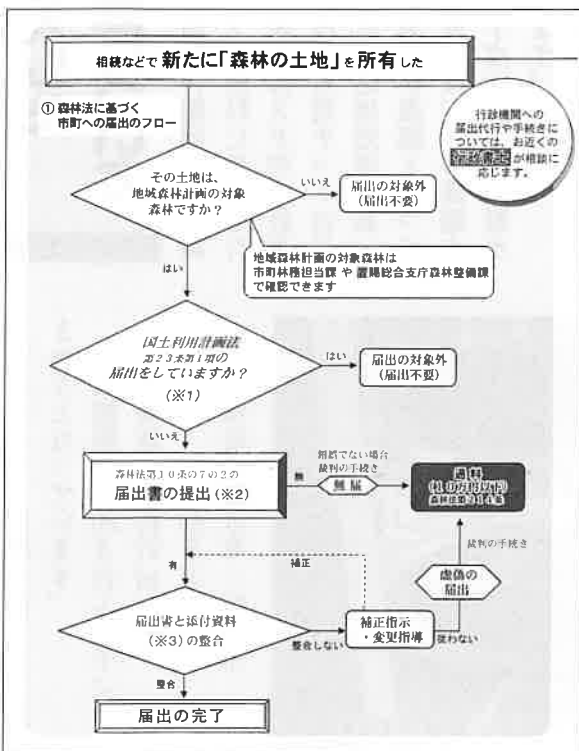
置賜地域は、林地の地籍調査が進まないなど境界不明の森林が県内の他地域に比べて多く、森林資源活用の妨げとなっております。

また、白鷹町で森林境界明確化の作業を行っている中で、世代交代や売買などの情報がないことが、境界や所有者不明の大きな原因のひとつとなっていることがわかりました。

●「土地届け」チラシ

そこで、平成28年度に山形県林業

士会や山形県行政書士会など多くの関係団体のご協力をいただき、「土地届け」チラシを作成しました。このチラシには、森林の土地を所有（相続）した際の手続き等として、



- ① 森林法に基づく市町への届出
- ② 法務局への（相続）登記
- ③ 森林組合等への土地活用の意思表示

の3つを「土地届け」と称して記載し、特に、①森林法に基づく市町への届出について、フローチャートを用いて示しております。（左図参照）

今後は、このチラシを活用しながら、管内の森林組合や市町、県など関係者が協力して、周知や手続き等の支援に努めてまいりたいと考えております。

（置賜総合支庁森林整備課）

「やまがた森林ノミクス」と共調しながら
森林整備に取り組んでいます!!

山形県森林ノ整備事業共同組合

- | | | | | | |
|------|-------|----------|------|-------|-----------|
| 理事長 | 横山 利幸 | 〔株〕旭産業 | 副理事長 | 高橋 菊男 | 〔有〕高菊林業 |
| 副理事長 | 上妻 嘉光 | 〔上妻林業〕 | 専務理事 | 和泉 誠七 | 〔(同) イズミ〕 |
| 理事 | 庄司 和敏 | 〔株〕庄司製材所 | 理事 | 荒生 周一 | 〔荒生木材(有)〕 |
| 監事 | 高橋 義見 | 〔有〕高橋林業 | | | |

〒990-0829 山形県山形市五日町1番12号

TEL 023-645-5098 FAX 023-645-1892 E-mail: izumisey@yahoo.co.jp

世界初 羽越木材協同組合で導入した 木質チップ圧縮脱水装置について

◆はじめに

栃木県に本社を置く国産材製材業者(株)トーセンは、含水率の高い木質チップを瞬時に乾燥し、有用な燃料に変えるための世界初となる木質チップ圧縮脱水装置(以下脱水機という)を開発し実用化に結び付けています。

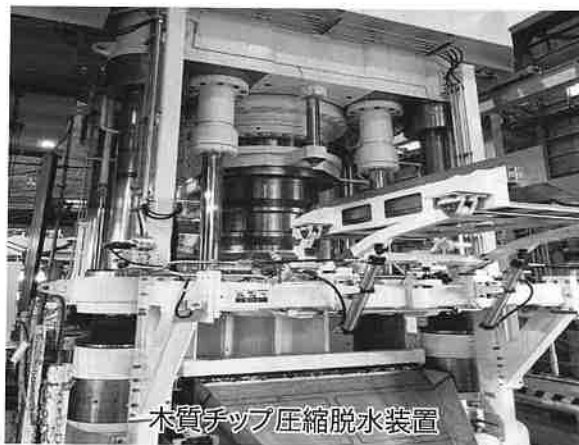


羽越木材協同組合鶴岡工場

◆脱水機導入の背景

平成28年2月から本格稼働を始めた鶴岡バイオマス発電所では、隣接

する羽越木材協同組合鶴岡工場で製造した木質チップを燃料に発電を行っています。一般的にスギ等の針葉樹は、含水率が高く木質チップの品質が不均一のため、燃焼効率が低い高品質なチップ製造が課題となっていました。同工場では、この課題を解決するため、平成28年3月、脱水機を導入しています。



木質チップ圧縮脱水装置

◆脱水機の概要等

脱水機の原理は、木質チップに圧力を掛け水を絞り出す、極めてシン

ブルなもので、同機の能力は左記のとおりとなっております。

- ・ 圧縮能力：約4百〜2千ト
- ・ 処理能力：約27㎡/時
- ・ 約5万ト/年
- ・ 処理後の含水率：約40%



圧縮脱水前の木質チップ投入状況

また、同機導入のメリット等としては、①含水率50%〜70%の木質チップを約2分で約40%に脱水する能力を持ち、時間の短縮が図られること、②含水率が40%台の良質なチップを供給することにより、安定したプラントの運転と燃料使用量の削減が図られること、③木質バイオマスを乾燥するためのスペースや乾燥期間の短縮が図られること等が挙げられます。



圧縮脱水後の木質チップ搬送状況

◆おわりに

脱水機の誕生は、バイオマス発電所に良質で安定的な燃料供給を可能とし、木質バイオマスエネルギーの利用促進に大きな弾みが付くものと期待されます。なお、同機は各方面から高い評価を受け、平成28年1月、日本鍛圧機械工業会からMF奨励賞を受賞しております。

今回の開発は、各方面の連携により実を結んだという側面があります。幸い庄内地域には、多様な産業が集積し、これらの連携による価値創造のポテンシャルが高い地域であることから、当庁では、今後もこのような取組みを支援してまいります。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

普及情報

平成二十九年森林研究研修センターで 実施する森林・林業技術研修等について

【はじめに】

森林研究研修センターでは、「やまがた森林ノミクス」を推進するため、林業士や指導林家等の森林所有者や森林組合・素材生産業者等の林業事業体の役員、市町村や県の林務担当職員を対象として森林・林業技術の普及や向上、人材の育成等を目的に各種研修を実施しています。

【これまでに実施した主な研修】

○市町村森林技術職員基礎研修

五月十七、十八日開催、市町の林務担当初任者職員十名参加。

○林業事業体等職員基礎研修

五月二十二、二十三日開催、森林組合の初任者等職員二十二名参加。

○森林作業道作設指導者養成研修

六月二十六～二十九日開催、林業事業体で森林作業道を開設しているオペレーター四名参加。

【これから実施する主な研修】

○森林施業プランナー技術向上研修

八月上旬開催予定、原木の生産性向上や森林所有者への提案書作成等について研修を実施。

○指導林業士・指導林家等研修

九月上旬開催予定、置賜地方での

先進的な林業の取組や林業関連施設等の事例を視察・調査。

○林業経営者育成講座（原木流通推進優良事例研修）

八月下旬開催予定、行政関係者や林業事業体の役員を対象に、原木の増産や供給体制の整備について先事例等の講習会を実施。

○新規指導林業士・青年林業士養成研修

二月開催予定、平成三十年度認定予定の方に対して、林業士の制度や役割、先進的な林業技術や研究成果の主要な施策等の研修を実施。

○森林作業道作設オペレーター育成強化研修

一般社団法人フォレストサーベイとの共催で九月下旬開催予定、林業事業体のオペレーターに、簡易で丈夫な森林作業道の作設に必要な技術力向上の実地研修を実施。

他に青年林業士や林業普及指導員等の技術向上研修を計画しています。事前に各研修の案内をいたしますので皆様の参加をお待ちしています。

〔森林研究研修センター〕



(案内略図)



JR真室川駅の北東約九百メートルにある熊野神社は、当地を開いた先覚者が天正七年（一五七九）紀州熊野本宮大社より勧請し村の鎮守としたと言われています。境内のスギは、幹周五・三m、樹高二十七m。

〔山形県森林協会〕

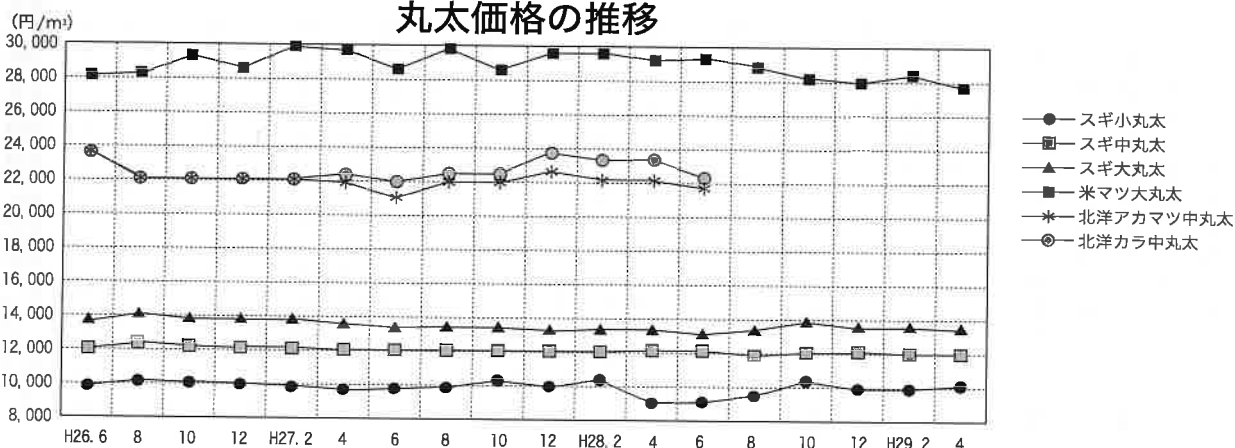


土砂災害を防止・軽減するには「治山施設」が必要です 森林を整備・利活用するには「林道施設」が必要です

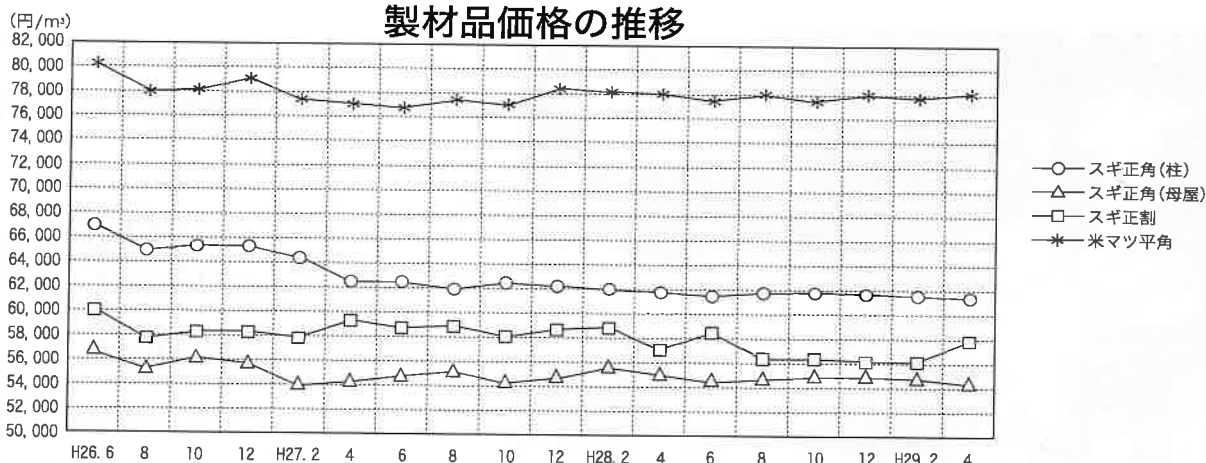
会長 東南村山支部長 堀川 隆志 羽陽建設(株) 理事 北村山支部長 大山 圭介 大山建設(株)
副会長 新 庄支部長 永井 敏行 永井建設(株) 理事 庄 内支部長 五十嵐久廣 鶴岡建設(株)
副会長 置 賜支部長 那須 正 那須建設(株) 監事 東南村山支部 荒井 孝直 (株)山形組
理事 西 村 山支部長 佐藤 欣司 大東建設(株) 監事 西 村 山支部 大泉 雅裕 (株)大泉組

山形県森林土木建設業協会 ◇事務所:山形市あさひ町16-21
TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454 E-mail: info@y-sinrin.jp

丸太価格の推移



製材品価格の推移



**森林の整備と環境保全型林業経営に努め、
山村地域の雇用創出と林業の振興に貢献します!**

公益財団法人 山形県林業公社 理事長 細野 武司

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265番

TEL 023-666-6348 FAX 023-689-9348 E-mail: y-ringyo@atlas.plala.or.jp

ホームページ: <http://business3.plala.or.jp/y-rkousy/>